

九州未来アワード 学生アイデア部門

崇城大チームに大賞

野菜栽培研究

地域の特性を生かした新事業で九州経済をけん引する企業や、学生の独創的な取り組みをたたえる「九州未来アワード」の最終選考が15日、鹿児島市のホテルであった。企業・団体部門は鹿児島島のHALVOホールディ

ングス、学生起業アイデア部門は崇城大生物生命学部「Whodo(フドゥー)」が、それぞれ大賞に選ばれた。

最終選考に残った8社・団体の経営者や学生らが、観客約200人を前に取り組みを説明した。

HALVOホールディングスは、火山灰シラスを用いた水の飲料用浄化剤を開発。地元素材を使って国内やアジア各国の水質改善に取り組んでいる点が評価された。

このほか、QPS研究所(福岡市)が未来産業集積賞、オフアサポート(宮崎市)がソーシャルイノベーション賞、佐賀ダンボール商会(佐賀県)が特別功労賞を受賞した。

(和田史郎)



熊日など九州の7紙でつくる実行委員会の主催で4回目。旭化成、中小機構九州、日本FP協会、日本BS放送協賛。企業・団体部門に35社、学生起業アイデア部門に14団体が応募。

崇城大Whodoは、水耕栽培と微生物を組み合わせた野菜の栽培を研究。成長が早く、栄養価の高いミニトマトの栽培に成功した事例を発表した。リーダーで3年の平田竜一さんは「1年の時から取り組んできた研究が評価されてうれしい。プレッシャーがあったので、ほっとした」と笑顔を見せた。

九州未来アワードの学生起業アイデア部門で大賞を受賞した崇城大Whodoのメンバー

15日、鹿児島市

企業・団体部門のH